

関係機関・団体・課・室長様

兵庫県農林水産部長

令和6年度 兵庫県農業気象技術情報第9号（3～4月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 ほ場管理</p> <p>(1) 堆肥及び土づくり肥料を未施用の場合は早急に施用する。</p> <p>(2) カメムシ類、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ等の越冬虫の密度低下を図るため、本田の耕うん及びあぜ等ほ場周辺の雑草除去を早めを実施する。</p> <p>(3) スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が発生している地域においては、丁寧な耕起を行うとともに、入水口の網設置など侵入防止の対策を行う。</p> <p>2 育苗管理</p> <p>(1) 種子伝染による主要病害虫を防ぐため、種子消毒を徹底して行う。種子消毒（温湯消毒を含む）を行う際には、以下の点に特に注意する。</p> <p>① 自家採種した種籾は罹病している場合があるので、購入種子を使用する。</p> <p>② 気温変動が大きい時期であるので、消毒、浸種時の水温に十分注意する。</p> <p>③ 浸種の場所は直射日光が当たらず、水温を確保しやすい場所とする。</p> <p>④ 薬効を確保し、薬害を避けるため、浸種時の水温は10℃以上を保ち、20℃を超えないように管理する。</p> <p>⑤ 吹き付け消毒種子の場合は、浸種して最初の2日間は水を交換しない。また、薬効低下を避けるため、浸種時の激しい攪拌は避け、水交換の際に決して種子を洗わない。</p> <p>⑥ 粉塵の飛び込みによる再汚染を避けるため、浸種時は浸種槽にフタをしておく。</p> <p>⑦ 育苗培土は無菌のものを使用する。病害の伝染源となるため、種子予措（播種前の一連の作業）作業場や育苗床に籾殻やわらを持ち込まない。粉塵にばか苗病菌が含まれる場合があるため浸種槽、種子投入口、作業場の壁、床面、隅などの清掃を徹底する。</p> <p>※令和6年度病害虫発生予察防除情報第9号参照（兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載中）</p> <p>(2) 温湯種子消毒を行う場合は、以下の点に特に注意する。</p> <p>① 水温は60℃、浸漬時間は10分間を基本とする。</p> <p>② 水温を低下させないよう、アミ袋の1/2を目安に種籾を袋詰めし、浸漬カゴに種籾を入れすぎない。（180ℓの温湯に種籾8kgの割合で浸種）</p> <p>③ 浸漬直後にアミ袋の中に温湯が素早く行き渡るように、アミ袋を数回上下させる。</p> <p>④ 処理後、ただちに種籾を流水中（水道水）で冷却し、速やかに浸種作業に移る。</p> <p>⑤ 処理後、浸種まで期間がある場合は、清潔なシート等に籾を広げて十分に乾燥させる。わらむしろはばか苗病などを保菌している場合があるので避ける。</p> <p>(3) 種子の休眠が深い場合があるので、浸種する水温は10℃以上とし、浸種期間を十分にとり、催芽させてから播種する。</p> <p>(4) 育苗時の温度管理は、気温変化の大きい時期であるので、下表を参考に適切に行うこと。なお、緑化期以降は、換気に努め、徒長や苗腐敗の発生を避ける。</p>	

		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>期間</td> <td>出芽期間 (2～3日間)</td> <td>緑化期間 (2～3日間)</td> <td>硬化期間 (10～15日間)</td> </tr> <tr> <td>【育苗期間における 温度管理の目安】</td> <td>昼夜別</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>昼間</td> <td>30～32℃</td> <td>22～25℃</td> <td>18～20℃</td> </tr> <tr> <td></td> <td>夜間</td> <td>30～32℃</td> <td>15～18℃</td> <td>12～15℃</td> </tr> </table>		期間	出芽期間 (2～3日間)	緑化期間 (2～3日間)	硬化期間 (10～15日間)	【育苗期間における 温度管理の目安】	昼夜別					昼間	30～32℃	22～25℃	18～20℃		夜間	30～32℃	15～18℃	12～15℃
	期間	出芽期間 (2～3日間)	緑化期間 (2～3日間)	硬化期間 (10～15日間)																		
【育苗期間における 温度管理の目安】	昼夜別																					
	昼間	30～32℃	22～25℃	18～20℃																		
	夜間	30～32℃	15～18℃	12～15℃																		
		(5) 育苗床や育苗施設の周辺に、いもち病の伝染源となる稲わら、籾殻を置かない。																				
麦	全 県 共 通	<p>1 生育 播種以降、寒波の影響等で気温の変動が大きい、生育は平年並みで順調に進んでいる。3月以降の天候は平年並～高いと予想されており、幼穂形成期や出穂期は平年並からやや早い見込みである。</p> <p>2 病害虫 (1) 開花時期に降雨があると赤かび病の発生が多くなるので注意する。</p> <p>(2) うどんこ病の発生動向に注意する。</p> <p>(3) 赤さび病の発生動向に注意する。</p> <p>(4) 昨年、水稲にイネ縞葉枯病が多発した地域は、麦類におけるヒメトビウンカの発生状況に注意する。</p>	<p>1 生育 湿害防止対策として、排水溝や周辺溝の溝さらえを行い、確実に排水口に水が流れるようにする。 第2回追肥(穂肥)は、未施用の場合は早急に施用する。茎立ちが始まってからの追肥は倒伏につながる恐れがあるので、生育に応じて減肥する。一方、高タンパク小麦では、葉色等の生育状況に応じて追肥の準備を進めておく。</p> <p>2 病害虫 (1) 生育状況を把握して、出穂期を予測し、防除計画を立てて適期防除に努める。 開花始めから開花期の薬剤散布は赤かび病の予防効果が高いので、必ず実施する。</p> <p>(2) うどんこ病は発生を認めたら早急に防除を行う。発生初期に薬剤防除を行うことが効果的である。</p> <p>(3) 赤さび病は、開花期以降でも発生を認めたら、使用時期・使用回数に留意して早急に防除を行う。発病初期の薬剤散布は効果が高い。</p> <p>(4) 兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載中の「イネ縞葉枯病防除マニュアル」を参照して、小麦ほ場で多発生の場合には、水稲での適切な防除に努める。</p>																			
キャベツ	全 県 共 通	<p>1 生育 (1) 3月以降、気温の上昇、日射の増加とともに生育が急激に進むため、管理作業の適期を逸しやすい。</p> <p>(2) 雑草の生育も早くなり、降雨等により対応が遅れることもあるので注意する。</p> <p>(3) 降雨による滞水は生育不良や病害発生の原因となる。</p> <p>(4) 球の肥大が早くなるため、収穫が遅れると裂球の恐れがある。</p>	<p>1 生育 (1) 中耕、追肥を遅れないよう適期に行う。球内部のチップバーンが発生しやすい作型であるため、降雨がなく、土壌が乾燥している場合は適宜かん水する。</p> <p>(2) 雑草の発生前～初期に中耕を兼ねて除草する。</p> <p>(3) 谷上げ、排水溝の整備等、ほ場排水に努める。</p> <p>(4) 収穫遅れにならないよう、八分結球程度の若どりに努める。</p>																			

		2 病虫害 菌核病及びアブラムシ類等の発生に留意する。	2 病虫害 発生の動向を注視し、適期・適剤で防除を実施する。																								
果樹	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 凍霜害の発生防止</p> <p>① 敷きわらや伸びた草等は昼間の地温の上昇を妨げ、夜間は園内の気温低下を助長する。敷きわら等のマルチは、霜害危険期を過ぎてから行い、下草は短く刈り込むか除草する。</p> <p>② 空気や土壌の乾燥は園内の気温低下を助長するので、乾燥が続く場合はかん水を行う。</p> <p>③ 冷気が停滞しやすい園地では、防風ネットのすそを開けて冷気を排出する。</p> <p>(2) 受粉用花粉の確保と人工受粉の徹底</p> <p>① ナシ等の受粉が必要な樹種については、必要量の花粉確保に努める。なお、中国産花粉は禁輸されていることに留意すること。</p> <p>② 人工受粉は丁寧に徹底して行い、結実の確保に努める。</p> <p>③ 霜害が発生した場合は、残存花への人工受粉を徹底するとともに、果実の状態を観察後、被害果の判定ができるようになってから摘果を実施する。</p> <p>(3) 初期生育の促進</p> <p>① 新梢や新根を順調に生育させるため、土壌が乾燥している場合にはかん水を行い、養水分の吸収を促す。</p> <p>② 根群域の土壌表面を裸地状態にすると地温の上昇が早まり生育の促進に有効である。</p> <p>※樹種別の留意点と対応策について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>樹種</th> <th>留意点</th> <th>対応策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イチジク</td> <td>春先の低温被害（凍害による発芽不良や発芽のバラツキ）に留意する。</td> <td>晩霜害の危険がある地域は、わら等の防寒資材の除去は早すぎないようにする。萌芽が進んで防寒資材の除去が必要な場合も、晩霜害の恐れがある場合は、わらを主枝上面だけでも残し、被害の軽減を図る。</td> </tr> <tr> <td>クリ</td> <td>春先の低温被害（凍害による幼木や枝の枯死等）に留意する。</td> <td>枯死枝は、健全な部位まで切り戻す。台木から出る芽は早めにかきとる。</td> </tr> <tr> <td>カンキツ類</td> <td>前年の着果状況に応じ、施肥時期や剪定程度、時期に留意する。</td> <td>前年に表年で着果が多かった場合、春肥の時期を早め、花芽の充実を図るとともに、軽め、遅めの剪定とする。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。</td> <td>萌芽時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。敷きわらは園内の気温上昇を妨げるので早くならないよう努める。芽かきは花房を確認してから行う。</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>春先の低温被害（開花期の低温による着果不良）に留意する。</td> <td>丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は、摘果時に着果量確保に努める。</td> </tr> <tr> <td>サンショウ</td> <td>春先の低温被害（樹や枝の枯死等）に留意する。</td> <td>切り口の癒合が悪いので、大きいものは癒合剤で保護する。枯死枝は健全な部位まで切り戻す。</td> </tr> <tr> <td>モモ</td> <td>春先の低温被害（凍害による芽や枝の枯死、開花期の低温による着果不良）に留意する。</td> <td>丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は摘果時に着果量確保に努める。枯死枝は健全な部分まで切り戻す。</td> </tr> </tbody> </table>		樹種	留意点	対応策	イチジク	春先の低温被害（凍害による発芽不良や発芽のバラツキ）に留意する。	晩霜害の危険がある地域は、わら等の防寒資材の除去は早すぎないようにする。萌芽が進んで防寒資材の除去が必要な場合も、晩霜害の恐れがある場合は、わらを主枝上面だけでも残し、被害の軽減を図る。	クリ	春先の低温被害（凍害による幼木や枝の枯死等）に留意する。	枯死枝は、健全な部位まで切り戻す。台木から出る芽は早めにかきとる。	カンキツ類	前年の着果状況に応じ、施肥時期や剪定程度、時期に留意する。	前年に表年で着果が多かった場合、春肥の時期を早め、花芽の充実を図るとともに、軽め、遅めの剪定とする。	ブドウ	気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。	萌芽時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。敷きわらは園内の気温上昇を妨げるので早くならないよう努める。芽かきは花房を確認してから行う。	ナシ	春先の低温被害（開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は、摘果時に着果量確保に努める。	サンショウ	春先の低温被害（樹や枝の枯死等）に留意する。	切り口の癒合が悪いので、大きいものは癒合剤で保護する。枯死枝は健全な部位まで切り戻す。	モモ	春先の低温被害（凍害による芽や枝の枯死、開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は摘果時に着果量確保に努める。枯死枝は健全な部分まで切り戻す。
樹種	留意点	対応策																									
イチジク	春先の低温被害（凍害による発芽不良や発芽のバラツキ）に留意する。	晩霜害の危険がある地域は、わら等の防寒資材の除去は早すぎないようにする。萌芽が進んで防寒資材の除去が必要な場合も、晩霜害の恐れがある場合は、わらを主枝上面だけでも残し、被害の軽減を図る。																									
クリ	春先の低温被害（凍害による幼木や枝の枯死等）に留意する。	枯死枝は、健全な部位まで切り戻す。台木から出る芽は早めにかきとる。																									
カンキツ類	前年の着果状況に応じ、施肥時期や剪定程度、時期に留意する。	前年に表年で着果が多かった場合、春肥の時期を早め、花芽の充実を図るとともに、軽め、遅めの剪定とする。																									
ブドウ	気温上昇による生育の前進や春先の低温被害に留意する。	萌芽時期をよく観察し、適期管理や適期防除に努める。敷きわらは園内の気温上昇を妨げるので早くならないよう努める。芽かきは花房を確認してから行う。																									
ナシ	春先の低温被害（開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は、摘果時に着果量確保に努める。																									
サンショウ	春先の低温被害（樹や枝の枯死等）に留意する。	切り口の癒合が悪いので、大きいものは癒合剤で保護する。枯死枝は健全な部位まで切り戻す。																									
モモ	春先の低温被害（凍害による芽や枝の枯死、開花期の低温による着果不良）に留意する。	丁寧に人工受粉を行う。結実不良の場合は摘果時に着果量確保に努める。枯死枝は健全な部分まで切り戻す。																									
		2 病虫害 今後、気温上昇とともに病虫害の発生に留意する。	2 病虫害 剪定枝、古い誘引ヒモ等の病虫害の発生源となるものは早めに園外に持ち出し処分する。																								

		病虫害の発生状況の把握に努め、適期・適剤で防除を実施する。
--	--	-------------------------------

◎水稻・麦の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、病虫害防除については「病虫害発生予察情報」及び「病虫害・雑草防除指導指針」を参考にすること。
 ※本情報は、2月28日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (03/01~03/28)		
2025年02月27日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 03/01~03/28	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わってでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目 03/01~03/07	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 03/08~03/14	気温	2週目は、平年並の確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 03/01~03/28	20 40 40
		1週目 03/01~03/07	10 30 60
		2週目 03/08~03/14	30 50 20
		3~4週目 03/15~03/28	30 40 30
降水量	近畿地方	向こう1か月 03/01~03/28	40 30 30
日照時間	近畿地方	向こう1か月 03/01~03/28	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (03月~05月)		
2025年02月25日14時00分 大阪管区气象台 発表		
03月~05月	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
03月	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
04月	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
05月	天候	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	03月~05月	30 30 40
		03月	30 30 40
		04月	30 30 40
		05月	20 40 40
降水量	近畿地方	03月~05月	40 40 20
		03月	40 40 20
		04月	40 40 20
		05月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「兵庫県イネ縞葉枯病防除マニュアル Version 1.03」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課
TEL (078)341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4067

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病虫害部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>分類から探す>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)